

コロナ禍での津市における 地域福祉活動の紹介



新型コロナウイルス感染症によって、従来のような「人が集い、つながり、支え合う」ことが難しくなり、私たちの生活が一変するような事態になりました。このような中でも感染防止の対策をしつつ、**各地で創意工夫をしながら新しいつながり方の実践**がうまれています。今回はその一例をご紹介します。

**生活支援
コーディネーター通信**

Vol.18 令和3年
10月25日

サロン代表者宅の畑を開
放し、畑サロンを開始し
ました。
3密にも気を付けなが
ら、活動しています。



今までのつながりが
途切れてしまわない
ように、電話で互いの
近況を報告して
います。



「外出の機会が少なくなり
心身の機能低下(フレイル)が
心配」という民生委員さんの
思いから、コロナ禍での生活
状況を伺うアンケートを住民
に実施し、次のステップに
進むところです。



人や地域のつながり
を感じてほしいという
思いとコロナ終息を願って
「万羽鶴大作戦」を計画し、
住民の方々から折り鶴を
募集しています。

コロナ禍でも
今までのつながりを
切らさないように
学校と地域が
手紙のやり取りを
続けています。



地域内に移動販売車が
来るようになり、
買い物だけでなく、
そこでのおしゃべりも
楽しみにしています。



サロン休止中でも参加者
に脳トレのプリント等を
配布し、見守り活動をし
ています。
いつでもサロンが
再開できるように
準備を進めています。



コロナが少し落ち着いた時
サロンのスタッフ同士の
交流会を実施し、モチベー
ションの維持に努めました。

他県で行われていた
コロナ禍における地域の
取り組みについて、
DVD 鑑賞を実施し、活動
の参考にしました。

サロンのスタッフ
ミーティングでは
サロン休止中でも
参加者の様子を
気遣っています。



新型コロナウイルスの感染拡大によって、人とのつながりについて改めて考えるきっかけになりました。他にも、3密を避けるため、**時間を分ける、飲食とくつろぎの空間を分ける、屋外の活動に切り替える**等でそれぞれ負担のない範囲で工夫をされています。with コロナの中での活動はまだまだ模索中です。「こんな取り組みをしているよ」等ありましたら、教えてください。第2弾発行につなげたいと思います。

